



TITLE:

<Book Review>Office of the Prime Minister,
Government of Thailand : Thailand, Official
Yearbook, 1964,Government House Printing
Office, Bangkok, 1965,702p

AUTHOR(S):

本岡, 武

CITATION:

本岡, 武. <Book Review>Office of the Prime Minister, Government of Thailand : Thailand, Official Yearbook,
1964,Government House Printing Office, Bangkok, 1965,702p. 東南アジア研究 1965, 3(3): 200-200

ISSUE DATE:

1965-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/55090>

RIGHT:

図書紹介

Office of the Prime Minister, Government of Thailand: *Thailand, Official Yearbook, 1964*. Government House Printing Office, Bangkok, 1965. 702 p.

タイにはこれまで、いくつかの商業出版物としての年鑑はあったが、このたび、はじめて政府出版物としての年鑑が、Phya Srivisar 大佐を委員長とする総理府編集委員会によって編集され、政府印刷局より刊行された。

これは、とくに政府活動を中心としての、タイ国最近の状態の公式報告ともいうべきものである。大判800ページ近い大部なもので、写真も豊富に挿入され、統計類も多い。その内容としては、つきの諸項目からなる。

- 1) タイの自然と歴史
- 2) タイの政治と行政
- 3) 外交
- 4) 国防
- 5) 社会厚生
- 6) 医療保険
- 7) 司法
- 8) 産業と経済開発
- 9) 貿易と金融財政
- 10) マス・メディア
- 11) 教育
- 12) 宗教
- 13) 芸術と文化
- 14) スポーツ
- 15) 観光

各項目は、それぞれ主管官庁によって担当執筆されているようである。したがって、それだけに統一性が乏しく、精粗まちまちである。また、一般のタイ入門書にみられるような主観的記述がなく、もっぱら政府報告としての無味乾燥なものである。(かならずしも客観的叙述とはいえないところがある。というのは、政府にとって不利なことは省かれ、逆にともすれば政

策の効果が大きく描きだされるきらいがあるからである。)

また、本書は年鑑とはいふものの、序文でことわっているように、毎年出版されるものでない。ここ当分、大きな変化のないかぎり、出版されないとのことである。

この意味で、本書は政府の年次報告でもない。政府版の「タイ国入門」といったらいちばん適切なのではないかと思う。その政府版という限界内で、叙述は比較的客観的であり、正確である。タイについてなんらかの研究をしようとする場合、まず一応読まれる必要がある。たとえばタイの教育を研究しようとするときには、本年鑑の教育の項目に目をとおすことが、最もてっとりばよい。こういった意味で、タイ研究に不可欠なものである。

しかも、これだけ大部なものが、わずか40パーツ(US\$2)で市販されている。政府刊行物なればこそである。

わたくしは、これだけまとまった英文の出版物を刊行するにいたったタイ国政府の調査行政能力にたいして、いまさらながら、心から敬意を表したい。

(本岡 武)

Frank C. Darling: *Thailand and the United States*. Public Affairs Press, Washington, D. C., 1965. 243 p.

本書にシカゴ大学 Hans J. Morgenthau 教授が序文をよせ、「学者による歴史の編集は政治家や大衆に現実の問題の根源を教えるものである」と強調し、ここにとりあつかわれるアメリカとタイとの関係史は、アメリカのタイにたいするこれからの政策のありかたに重要な価値があるという。

たしかに、本書はこうした意図のもとに書かれたようだ。著者 Frank C. Darling 博士は、ワシントンの American University で政治学の ph. D. をとったあと、チェラローンコーン大学とタマサート大学の